

シアトル留学記

Public Health Sciences Division
Fred Hutchinson Cancer Research Center

日高 章寿
(東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科学講座)

私は2018年10月よりシアトルにあるフレッドハッチンソンがん研究センター (Fred Hutchinson Cancer Research Center : 以下フレッドハッチ) に研究留学しております。フレッドハッチがあるシアトルは、アメリカの北西部、カナダとの国境に接するワシントン州最大の街です。気候は、秋から春までは雨の日が多いですが、夏はからっとして涼しく、冬は氷点下になることも稀で過ごしやすいです。さらに街には湖と緑に溢れていることからエメラルドシティと呼ばれています。産業面ではマイクロソフトやアマゾンといった世界有数の大企業があり、IT 産業の成長に牽引されて近年急成長を遂げる、世界中から人々が集まる非常に魅力的な街です。

私の研究留学先の施設名はシアトルが生んだ偉大な野球選手フレッド・ハッチンソンに由来しています。若くしてがんで亡くなった弟の死を悼み、兄であり医師でもあったウィリアム・ハッチンソンが中心となり1975年に設立されました。フレッドハッチはいくつかの部門に分かれており、私は Public Health Sciences Division にある Dr. Ulrike Peters が主宰するラボに所属しております。ポスを含めて総勢15人程度が在籍しており、疫学・生物統計・バイオインフォマティクスを専門とする研究者が複数在籍している比較的大規模なラボです。

我々の研究室は、Genetics and Epidemiology of Colorectal Cancer Consortium (GECCO) という大腸がんゲノム疫学コンソーシアムを主導し、世界中から大腸がんデータを収集しています。収集したデータを統合して、多方面の研究者と常に情報交換しながらデータ解析し、大腸がんに対して様々な角度からアプローチをしている非常にアクティブな研究チームです。私自身ももともと消化器内科医であり、さらに留学前は国立がん研究センター・社会と健康研究センターで消化器がんの疫学研究にて学位を取得していたため、留学先でもその知識は役立ちました。疫学・生物統計・バイオインフォマティクスの分野は女性の割合が近年高くなっていると聞いていましたが、実際 Ulrike ラボも大部分のメンバーが女性であり、アメリカでもその傾向が強いとのことでした。上司・同僚も含め全ての研究者は大変親切で、周囲の助けを借りながら私の研究テーマであるゲノム機能解析を用いた大腸がん遺伝環境交互作用の解明について少しずつ研究を進めているところです。

海外で研究することに関して様々な意見があるとは思いますが、私は、海外に住んだことがない人ほど留学する意味があるのではないかと思います。一生のうちの数年間、不慣れな環境の中で得意ではない英語を駆使し研究することは、必ず今後の自分の糧となると思います。

最後になりますが、研究を基礎からご指導していただき、さらに私の留学に多大なご尽力を賜りました国立がん研究センター・社会と健康研究センターの岩崎基先生、津金昌一郎先生、私の留学を快諾してくださった東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科学講座の猿田雅之教授、消化器・肝臓内科の先生方、また留学に際しご支援いただいた上原記念生命科学財団の皆様にご心より感謝申し上げます。

(2019. 2. 21受領)



Kerry Park から見る雪化粧した Downtown
自宅から徒歩10分程度の場所にある Kerry Park からはシアトル中心部が一望できる